２学年技術・家庭科学習指導案

授業者　小笠原　紀

１　日　　時　　平成１６年１０月５日（火）第６校時

２　学　級　名　　２年２組　（男子　２１名，女子　１８名，計　３９名）

３　主　　題　　中学生になるまで

４　主題について

（１）　題材について

本題材では、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせることを目標としている。

学習指導要領によると、Ｂ（１）自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについては、（２）幼児の発達と家族、（３）家庭と家族関係と相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするように留意することとある。（２）、（３）の学習の導入として扱う必要のある題材だといえる。

幼児期は、人の一生の中で人間形成の基礎をつくる大切な時期である。誰でも，他の時期と比べてより多くの保護を必要とし、家族や周囲の人々に支えられて育つのである。人生の中で２度目の発育急進期を迎える中学生期に、今までの自分の成長を振り返りながら、家族や周囲の人々に支えられて成長してきたことに気が付かせることは、大きな意義のあることである。

また、自分が通ってきた道を人間の成長・発達の過程としてとらえさせ、客観視し、立ち止まり、自分をじっくり見つめながら自分の成長にかかわる家族や周囲の人々の思いや考えに触れることは、かけがえのない自分や家族についての考えを深めることにもつながり、家族や社会の一員としての自覚、認識につながると考える。

（２）　生徒の実態

生徒は家庭科の授業、中でも調理実習や実験にたいへん意欲的に取り組んでおり、『日常食の調理』、『染み抜き』、『アイロンがけ』などの体験から、実際の生活に生かすことができているようである。

学級の生徒を取り巻く環境は，近年の家族構成の変化により，子どもの発達を体験的に知ることが少ない状況である。幼児と遊ぶ機会は多くはないが，幼児に対して「大好き」，「好き」といったプラスイメージをもっている生徒が多い。「嫌い」と答えた生徒は非常に少なかった。

「嫌い」と答えた具体的な理由は、「うるさい」，「しつこい」「めんどうだ」などである。このような状況は、幼児の成長の過程や特徴を正しく理解していないことで、幼児に対してのマイナスイメージをもっているようにも考えられる。

一方、幼児の実態を正しく理解していないことが、プラスイメージをもっている生徒が多いことにつながっているようにも考えられる。

- **あなたの家に幼児はいますか。**
  いる　10.5%　**いない**　89.５%
- **あなたは、幼児と接する機会がありますか。**
  ある　57.９%　　**ない**　42.1%
- **最近、幼児と遊ぶ機会はありますか。**
  よく遊ぶ　15.8%
  時々遊ぶ　28.9%
  遊ばない　55.３%
- **幼児は好きですか。**
  大好き　28.9%
  好き　26.3%
  普通　39.5%
  嫌い　5.３%
- **あなたの幼児期を思い出して、可愛がられたと思いますか。**
  可愛がられていた　31.6%
  普通　68.4%
  可愛がられなかった　0%
- **親から自分の誕生や生育について、話しを聞いたことがありますか。**
  ある　73.6%　　**ない**　26.４%

（３）　指導の構想

家庭科の学習指導において、「学ぼうとする力」を育てるために、生徒の実態を把握し、生徒の興味関心を生かした課題提示を心がけている。

『中学生になるまで』では、保護者からの「保育領域に関わる調査票」を参考に自分史づくりに取り組みませ、自分の成長を振り返らせることに重点を置く。生徒たちが、自分自身の幼児期を振り返りながら、幼児期の特徴に気づき、自分の成長や生活が家族や周囲の人々に支えられてきたこと、自分がかけがえのない存在であることを認識できるようはたらきかけたいと考えた。また、家族や友人など、自分の周囲の人々に対しても人格を尊重した接し方ができるように導いていきたい。

生徒たちのこれからの生活において、自分自身を大切に生きていくことはもちろん、将来の自分の生き方を模索していくきっかけとなるような題材にしていきたい。

6　単元の目標

（1）　生活や技術への関心・意欲・態度

自分の成長を振り返り、意欲的に学習に取り組もうとすることができる。

（2）　生活を工夫し創造する能力

自分の幼児期を思い出し、自分史をまとめることができる。

（3）　生活や技術についての知識・理解

人間の一生の中での幼児期の特徴を説明できる。

7　指導計画

（1）　自分の発達の過程を振り返り、幼児期の特徴について考えることができる。

・・・（本時）１時間

（2）　自分の成長や生活は、家族や身近な人々に支えられてきたことに気付くことができる。

・・・１時間

8　本時について

（1）　本時の目標

ア　自分の幼児期の思い出から、幼児期の特徴について考えようとしている。

（関心・意欲・態度）

イ　保護者からの調査票を参考に自分史をまとめることができる。（創意工夫）

ウ　人間の一生の中での幼児期の特徴に気づく。（知識・理解）

（2）　研究主題にかかわる本時の構想

ア　動機付けとして幼児期にお世話になった先生方の映ったＶＴＲを視聴する。保育所で幼児が遊んでいる姿を観る中で、様々な行事や出来事，先生との触れ合いを思い出すことができ、スムーズに解決活動に入ることができるのではないかと考える。

イ　課題解決活動として、自分史づくりを行う。昨年、総合学習の時間の中で、自分史づくりを行ったが、出生から５歳児頃にかけての記述は十分ではなかった。自分の成長の発達や思い出を記憶しているものの、その記憶を辿って自分史を作成することは簡単な作業ではない。そこで、事前に家族に依頼しておいた事前調査表を参考に、自分史を埋めていくことになる。

ウ　学習のまとめとしては、自分の幼児期の身体の発達、できるようになったこと、経験してきた様々な想い出とそれにかかわってくれた人々について、あらためて用紙にまとめていく過程を通して幼児期の特徴に気付かせたい。

エ　本時の学習を通して、産まれてから今の自分になるまでに関わってくれた人々に対しての感謝の気持ちを感じることができるように指導したい。

９　本時の展開

：学習課題　　：予想される生徒の反応

関：生活や技術への関心・意欲・態度　　創：生活を工夫し創造する能力　　知：生活や技術についての知識・理解

段階	過程	学習活動	指導上の留意点	評価の場面と具体の判断規準	教材教具
導入 10分	課題づくり 課題追求	1　内発的動機付け ＶＴＲを鑑賞する。 感想を発表する。 本時の学習の内容「わたしの幼児時代を振り返って」を提示する。 幼児期の思い出 **お泊り保育、遠足、お茶会、クリスマス会、運動会、野原での遊び、給食のつまみ食い** 2　学習課題の設定 幼児期とはどのような時期か	※幼稚園で幼児が遊んでいる様子をＶＴＲで視聴させる。 ※視聴後は、ＶＴＲから自分の幼児期の思い出を想起させ発表させたい。 ※挙手がない場合には、事前アンケートの結果から、学級のみんなの幼児期の思い出を知らせる。		・紙板書 ・ＶＴＲ ・学習シート
展開 30分		3　課題追求 （1）　予想する 自分にとっての幼児期とはどのような時期だったかを考える。 **遊んでばっかりだった。** **楽しかった。覚えていない。** **幼稚園や保育園に行ってた。** （2）　課題解決活動 誕生から小学校入学までの成長について、自分史をまとめる。家族からの調査票を参考にする。 （3）　発表 人間の一生の中で、幼児期はどんな特徴をもつかを考え、発表する。 **言葉を覚える。** **集団生活ができるようになる。**	※できるだけ多くの生徒に挙手をさせて発表させる。 ※２０分の中で自分史をまとめさせる。 ※家族からの調査票を配布する。 ※家族からの調査票を参考に、再度、自分史をまとめさせる。 ※自分史や調査票を参考にしながら、幼児期の特徴に気づかせる。	関：幼児期の思い出から、幼児期の特徴を考えようとしているか。 創：家族からの事前調査票や自分の経験を参考に、自分史をまとめているか。	・アンケート結果（紙板書） ・家族からの事前調査票
終結 10分	まとめ・発展	4　まとめ 人間の一生の中での幼児期の特徴を確認する。 自分史を書いてみての感想を発表する。 **自分は，家族に支えられてきた。** **乳幼児期の心身の発達が著しい。** 本時の学習の自己評価をする。 5　相田みつをの詩を読む。	※幼児期と中学生期の位置付け，幼児期の特徴について簡単にまとめさせる。 ※本校 3 年生の保育実習でのＶＴＲを鑑賞させる。 ※自分の幼児期の生活は、様々な人の支えによって成り立っていたことに気づかせる。 ※落ち着いて学習を振り返らせる。 ※拡大した詩を黒板に掲示する。 ※相田みつをの詩を範読する。	知：人間の一生の中で幼児期の特徴についてまとめることができる。	・学習シート ・ＶＴＲ ・拡大した詩

2年生家庭分野　題材名　B家族と家庭生活「1　中学生になるまで」

題材の目標　自分の成長や生活は、家族や身近な人々に支えられてきたことに気づく。
自分の幼児期を振り返ることができる。

月	題材	評価規準	観点	具体の評価規準			評価方法
				A：十分満足できる状況	B：おおむね満足できる状況	C：努力を要する生徒への支援	
10	私の成長と家族や周囲の人々	・自分の成長や生活と，家族や家庭生活との関わりについて考えようとしている。 ・自分の成長を振り返り，意欲的に学習に取り組もうとする。	関心	・幼児期の思い出から、幼児期の特徴を考えることができる。	・幼児期の思い出から、幼児期の特徴について考えようとする。	・家族からの事前調査表から、幼児期の特徴について考えることができるようにうながす。	・学習状況の観察 ・ノート点検 ・プリント
		・家族からの事前調査表や自分の経験を参考に、自分史をまとめることができる。	創意	・自分史の作成を通して、周囲への感謝の気持ちに気付き、文章に表現することができる。	・自分に関わった人々を整理しながら自分史をまとめようとする。	・自分に関わった人々に気付かせながら、自分史をまとめることができるようにうながす。	
		人間の一生の中での幼児期の特徴についてまとめることができる。	知識	・人間の一生の中での幼児期の位置付け、幼児期の特徴について、文章にまとめることができる。	幼児期の特徴について説明することができ、文章にまとめようとする。	・教科書や資料から、幼児期を説明している箇所を示し、幼児期の特徴をまとめるようにうながす。	